



# Economic Monitor

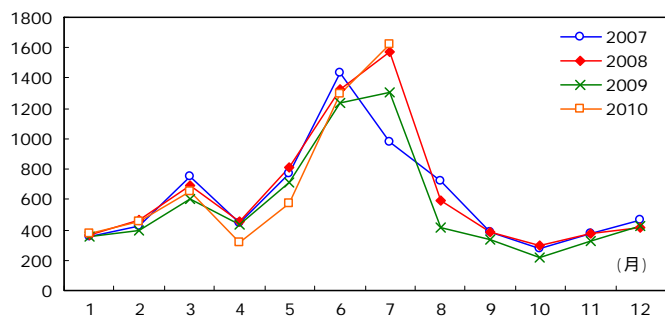
## 7月のエコポイント商戦はエアコンが好調

7月のエコポイント商戦は、猛暑を反映しエアコンが好調だった。25日に日本冷凍空調工業会が公表した統計によると、7月の国内出荷台数は前年比24.3%（6月5.1%）と2008年7月の60.3%以来の高い伸びを記録した。但し、7月の前年比ベースでの高い伸びは、2009年のエアコン商戦が、金融危機後の景気低迷と平年を下回る気温により振るわなかった反動でもある。

2007年以降の気温推移とエアコン商戦を見ると、2007年は6月に平年気温を1度上回りエアコン出荷が6月から活発化した。7月は平年気温を下回り商戦も一旦落ち込んだものの、8・9月と残暑が厳しくエアコンが売れ続けた。2008年は6月こそ平年並みだったが7月に気温が急上昇し、エアコンがよく売れた。対して、2009年は気温が平年を下回る月が多く、2007～2008年好調の反動もあり、エアコン出荷が夏を通じて低調だった。2009年の国内出荷を前年比で見ると6月6.5%→7月▲16.8%→8月▲28.9%→9月▲12.5%と大幅な前年割れに留まる。今年もエアコン商戦は5月まで低調だったが、6月・7月と2ヶ月連続で平年気温を1度以上も上回る猛暑となり、6月以降にエアコン商戦が活発化している。なお、エコポイントが始まった2009年春から今年5月までエアコン出荷が総じて低調だったことから、薄型テレビとは異なり、エアコン商戦については気温が主たる変動要因で、エコポイント効果は補助的要因に留まることが読み取れるだろう。

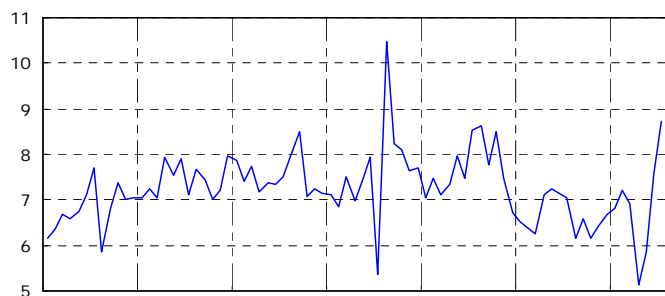
エアコンの国内出荷台数に季節調整を施すと、今年7月の好調は2009年の低調との対比で確かに際立つものの、絶対水準としては2008年夏とほとんど変わらない。8月以降に、（季節調整値ベースで）7月と

家庭用エアコンの国内出荷台数(千台、原数値)



(出所)日本冷凍空調工業会

家庭用エアコンの国内出荷台数(百万台、年率、季節調整値)



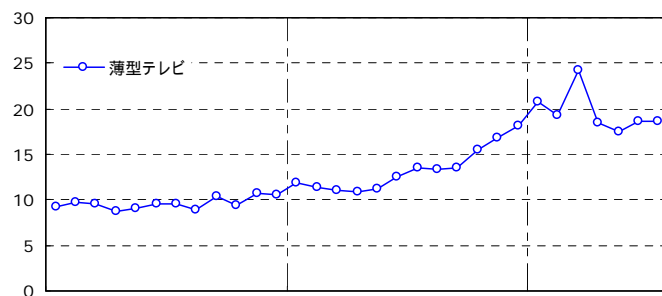
(出所)日本冷凍空調工業会

平年気温との比較( )

	6月	7月	8月	9月
2007年	1.06	▲0.81	1.28	1.92
2008年	▲0.19	1.19	▲0.02	0.69
2009年	0.52	▲0.16	▲0.56	▲0.08
2010年	1.24	1.42		

(出所)気象庁

薄型テレビの国内出荷台数(百万台、年率、季節調整値)



(出所)JEITA

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、伊藤忠商事調査情報部が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。記載内容は、伊藤忠商事ないしはその関連会社の投資方針と整合的であると限りません。

同程度の好調推移が続いたとしても、2010 暦年の合計出荷台数は 2008 年と同程度に留まる。冷静にデータを紐解けば、今年夏のアエアコン商戦が過去と比べて、それほどの盛り上がりではないことが分かる。

ただ、瞬間風速での寄与は無視できないものがある。7 月のエアコン出荷台数は 4~6 月期の水準を 4 割超上回り（季節調整値）エアコン・メーカーは 7~8 月の生産を 5 割増しにすると報じられている。鉱工業生産に占めるエアコン（セパレート型エアコン）のウェイト（54.1/10000）に基づくと、4~5 割の増産は鉱工業生産全体を 0.22~0.27%Pt 押し上げる。7~9 月期の鉱工業生産は前期比の伸びが横ばい程度まで落ち込むと懸念されており、猛暑によるエアコン生産増加が無視できない押し上げ寄与となりうる。

家電エコポイントの対象はエアコンと冷蔵庫、テレビの 3 品目である。JEMA によると、冷蔵庫も、エアコン同様に猛暑効果によって、7 月は数量ベースで前年比 9.6%と健闘している。また、JEITA によると薄型テレビの 7 月国内出荷は前年比 38.5%(6 月 47.9%)と 19 ヶ月連続で 2 桁の伸びを記録した。但し、当社試算の季節調整値で見ると、6 月から横ばい（前月比 0.2%）であり、特に 7 月のテレビ商戦が好調だったわけではない。